

# ましけ町議会だより

No. 140

平成27年2月



消防出初め式(H27.1.5)

第4回定例会	<b>議案審議結果</b> .....	2 P
	<b>行政報告</b> .....	2～3 P
	<b>一般質問</b> .....	4～8 P
	<b>議会のうごき、編集後記</b> .....	8 P

## 第4回定例会

第4回定例会は12月11日に開会し、会期を12日までの2日間と定め、新条例の制定4件、一部改正条例4件、平成26年度一般会計ほか7会計の補正予算、意見書などの審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

### 審 議 結 果

No.	件 名	結 果
1	専決処分報告について（平成26年度増毛町一般会計補正予算）	承認
2	漁業用燃油にかかる軽油引取税免税措置の堅持に関する意見書	原案可決
3	留萌地域電算共同化推進協議会の設置について	原案可決
4	増毛町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
5	増毛町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
6	増毛町保育の必要性の認定に関する条例の制定について	原案可決
7	増毛町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
8	議会の議員の報酬等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
9	特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
10	増毛町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
11	増毛町国民健康保険条例の一部を改正する条例	原案可決
12	平成26年度増毛町一般会計補正予算	原案可決
13	平成26年度増毛町国民健康保険特別会計補正予算	原案可決
14	平成26年度増毛町観光施設事業特別会計補正予算	原案可決
15	平成26年度増毛町診療所事業特別会計補正予算	原案可決
16	平成26年度増毛町介護保険特別会計補正予算	原案可決
17	平成26年度増毛町公共下水道事業特別会計補正予算	原案可決
18	平成26年度増毛町水道事業会計補正予算	原案可決
19	平成26年度増毛町砕石事業会計補正予算	原案可決

### 行政報告



石崎町長

農作物収穫状況・漁業水揚げ状況について

農業では、水稲は8月の大雨の影響もなく生育は概ね順調に推移し、収量に恵まれ、道内の作況指数が107であったのに対し、留萌管内では109と全道平均を上回り、町内の出荷俵数も2万2千俵となり、前年以上の豊作となりました。

果樹は、天候に左右された厳しい生産状況で、基幹品目であるサクランボは、平年並みの開花期を迎えましたが、気温の変動を受け、結実数は、圃場、品種により格差が多く見られ、結実数が少なかったこともあり、販売にも影響を及ぼしました。

リンゴ・ナシは、順調に果実の肥大が進んでいましたが、9

月、11月の強風により、一部で果実の落下が発生し、量的にも少なく、擦り傷が影響し、品質の低下が見られましたが、果樹全般としては、糖度が乗り食味が良好な年でありました。

漁業については、11月末までの水揚げは、昨年同期に比べ、金額で1億7753万円の増となっております。

主な魚種では、エビは水揚げ金額が大きく上回り9172万8千円の増、サケは来遊数も回復し3758万2千円の増、ウニも風に恵まれ単価も良く4396万3千円の増となったほか、ホタテ稚貝も出荷量が増え、3537万円の増となりましたが、タコは時化の影響により4438万8千円の減となっております。今年も残りわずかとなり、冬場で時化の日が多いことが予想されますが、天候に恵まれ豊漁を期待しております。

今年度事業採択を受けた信砂地区の農業基盤整備事業の進捗状況について

今年度の事業総予算額は、1

億5千万円で、主な事業内容は、2工区の調査設計、土質調査、地形図作成、歩掛作成で試験的工事として、3圃場で約1・5ヘクタールの水田の整備工事が実施され、来週には完了検査も予定されています。

今後は、信砂地区での新年度事業決定に向けた計画の策定のほか、朱文別以南地区での事業採択に向けて準備作業を進めていきます。

旧箸別パイロットファームでの株式会社ノエビアの取組について

平成17年から旧箸別パイロットファームの町有地を北方植物の化粧品への応用研究を進めるために、賃貸借契約を結んでいますが、10月に薬用植物など22種類を化学合成農薬や化学肥料を使用しないで栽培しています。0・35ヘクタールの圃場が有機JAS認証を取得したことが報じられました。

認証を受けて10月に現地を訪れたノエビアの研究開発部の方からは、今後、栽培・生産・加

工まで一貫管理した薬用植物を原材料としたオーガニック化粧品の開発を目指すとのこと伺っています。

今回の認証は、オーガニック化粧品開発の第一歩となりますが、来年は作業員の増員も予定されていることもあり、パイロットファーム跡地の地形や環境が今後も有効に活用され、将来的に本町の活性化につながっていくことを期待しています。

最後に、私の町長としての任期も残り2か月ほどとなりました。

既に新聞等で報道されていますが、今後4年間の体調面のことや16年間の任期の中で、一定の区切りができたこともあり、次期の町長選挙には出馬しないことを改めて報告させていただきます。

これまでの町政運営では、地方自治体が大きな変革の時代の中で、町の財政再建、第一次産業の基盤整備、生活インフラの整備、観光振興などに取り組み、一定の成果をあげることができ

ましたことに、深く感謝を申し上げます。

これからは、本格的な人口減少時代を迎え、地方創生への取組が益々加速していくことが予想され、地域の資源、知恵、工夫を今まで以上に活かすことが必要とされますが、議員の皆様には今後益々の御活躍を御祈念申し上げます。

最後に、4期16年間の町政運営に対して、町民の皆様、議員の皆様、各関係機関の方々の多大なる御協力と御支援に対しまして、深く感謝とお礼を申し上げます。

ありがとうございました。



平成26年  
第4回定例会

# 一般質問 Q&A

平成26年第4回定例会の一般質問は、12月11日3名の議員が登壇し、それぞれ理事者の考えを質しましたので、質問と答弁を要約してお知らせします。

○松倉議員  
町民と行政がともに行動していくことが重要であり、地域貢献、公共的な活動を支えるのは多くの町民である。

高齢者のこれまで培ってきた豊かな知識と経験を活かし、意欲や能力に応じた多様な就業機会をつくることに関しては、今後の重要なテーマと思うが、そこで当町に「高齢者事業団」を作ってはどうかという声があるが。

(一)当町で設立に至らなかった理由は。

## 松倉議員

### 時代に即した高齢者の生きがいと社会参加について



Q・高齢者の社会参加について

A・事業団の設立に支援

(二)当町の高齢者のこのような事業に対する参加意欲をどう捉えるのか。

(三)今後、高齢化率の増加に伴い、高齢者事業団機能を果たす団体づくりやシステムの構築が幾つかの課題解消につながる取組と考えるが、当町にそのような動きが出た場合、支援や補助、または、その他のバックアップ体制を取る考えはあるか。

○町長  
高齢者事業団は、長年培ってきた能力や経験を活かした仕事を通じて、生きがいのある生活、また、社会参加を図りたい高齢者の方に対して、臨時的、短期的な仕事を提供する事業体であり、仕事の内容や就労実績に応じて報酬が支払われ、全道では101の市町村に設置されている。

平成11年第3回定例会で一般質問があり「必要な組織ではあるが、人材の応募と仕事の量について調査したうえで取り組みたい」と答弁した。

調査したところ、除雪や公共

施設の維持作業等は民間企業や他の団体が既に行っており、仕事量自体が見込めないことから、高齢者事業団の設立に至らなかった。

仕事を提供する活動は、民間の自主的な活動を行政が支援することが望ましいと思っている。

当町では、必要な取組と認識しているので活動をする団体など積極的に支援をしていきたい。

○松倉議員  
当町にも必要があり、事業団設立の動きが出てきた場合には、行政として支援、その他を考えるとという受け取り方で宜しいか。

○町長  
事業団を設立することにまず支援をして、一緒に考えていくことが大事と思う。

社会福祉活動や、自治会活動と競合することのないよう、また、どういった仕事があるのか、きちんと想定したうえで、体制を作るべき、設立のお手伝いをしたいと思う。

菅原議員  
安政3年に当時の秋田藩が町に元陣屋を設置したことや、鯨漁で隆盛を極めたことで、管内において最も早く行政・経済の中心として発展したことにより、町内には個人所有も含め、多数の歴史的資料が存在する。しかし、何も手を加えられず、現状で保存・保管することにより劣化が進み、紛失等も考えられることから、行政としてデジタル化処理をすることで長期間の保存を可能にし、後世に残すことができるかと考えるが、理事

菅原議員

増毛町の歴史的資料の保存について



Q. 後世に残すための工夫を

A. 近隣市を参考に組みたい

○小田議員

小田議員①

デマンド型交通について



Q. どう考えるか

A. 可能性を探るべきと考える

者の考えはどうか。  
○教育長  
教育委員会としては、将来的には取り組むべき検討課題として考えているが、現状として、保存すべき資料等を十分には把握していない状況があるので、当面は調査収集等が課題になる。留萌市での実施事例があり、内容等を調査したところ、当町での取組等は可能と判断しており、今後、町長部局と協議するほか、資料の収集方法等についても検討していきたい。

住民の交通手段の確保は大きな課題だと思うが、  
(一)公共交通の現状と課題に対する認識は。  
(二)暑寒沢・中歌・湯ノ沢等の公共交通空白地域には、信砂と同様に手段の確保をすべきでは。  
(三)デマンド型交通について、どう考えるか。  
(四)町が運営する交通手段は幾つかあると思うが、「乗り合い」として効果的に活用できないか。  
(五)介護タクシー制度の運賃はどの程度か。  
また、町が乗り合いタクシーを試行すると、実現の際の経費や補助制度は。  
(六)様々な課題を検証していくため、「地域公共交通会議」を設置すべきでは。

○町長  
当町における公共交通機関は沿岸バス株式会社による路線バスとJRがある。  
路線バスは国や道の補助対象ぎりぎりの平均乗車密度である留萌・別荘線が平成27年10月より減便となる予定で、JRについても毎年輸送人数が減少している状況である。  
また、スクールバス・保育所・福祉・温泉・スキーバス等、それぞれ目的で運行している町営バスについても公共交通と解釈してよいと思う。  
(一)当町における課題は、高齢者や自動車の運転をやめた人の移動手段確保対策であり、既存の路線や駅より離れた地域から歩くこと、タクシー利用時の負担が大きいこと等がある。  
(二)暑寒沢・中歌・湯ノ沢の各自治会に対し、利用者の調査をした上で、福祉バスの運行が必要かどうかを検討すべきと考えている。  
(三)小平町で始まったデマンドバスはバス路線廃止に伴う区間のバスであるので、今の所は小平町のような導入はない。  
しかし、将来的にはデマンド型交通の可能性を探るべきと考えている。  
(四)町営のバスはそれぞれの目的に応じて運行しているものであり、安全面・時間・乗車人数の

制限等、また、路線バスとの競合により難しい点がある。

(五)介護保険適用の場合の介護タクシーサービスは、留萌・増毛間は無料。

有償で運送を希望する場合は同区間が1500円から2000円前後である。

また、町が一日一台、往復の乗り合いタクシーを運行すると、経費は年間360万円前後と考えられ、地域間交通ネットワークと接続する場合の補助制度が考えられるが、路線バスの運行区間と重なるとなると難しいとの回答をいただいている。

(六)「地域公共交通会議」は、地域で運送事業者が対応できず、町が有償運送を行う場合に設置が必要となる性格のものであり、現時点では考えていない。

○小田議員

早く調査し、早く検討し、早く運行してもらいたい。

スクールバスは住民が自由に乗れる地域が沢山ある。

目的別の補助金はそれにしか使えないということはないので

はないか。

○町長

早く早くということであるが、必要性を十分に検討した上で予算立てをするという順番がある。

残念ながら私の任期はあと2か月であり、運行する所までは行き着かない。

当町のスクールバスは乗車人数が多い。

バス停で待たれる子どもさん達のことを考えると、2分でも3分でも遅れたりすると、特に吹雪の際等は大変な迷惑をかけることもある。

補助金の面ではなく、乗車人数の点や安定的な運行を守っていくためには難しいという話である。

○小田議員

スクールバスは一日いっぱい動いているわけではない。

空いている時間に運行することはできないか。

また、既存の業者に委託する等の検討はできないか。

○町長

スクールバスは、運転手さん

をお借りして町のバスを走らせる場合も、バス自体を借り上げる場合も時間の契約ということになっている。

したがって、スクールバスとしての運行以外の経費が莫大に発生するという課題がある。

タクシー業者に委託ということであってもお金が必要なことなので、口で言うほど簡単な話ではない。

○小田議員

町長の任期は残り2か月であつても行政の仕事は継続しているの、是非取り組んでいただきたいが。

○町長

町の政策課題は職員が勝手にやる話ではない。

住民の負託を受けた町長が政策課題として予算化をして議会に諮るといふことであるので、町長がいなくても職員が勝手にやれというのは無謀な話である。

3月議会でもまた同じ質問をして、前町長は検討すると言っていたと、話の続きを新町長に聞いていただくのが妥当ではないか。

小田議員②  
舎熊地区の避難  
場所について

Q.多角的な対策が必要

A.全体計画を策定し検討

○小田議員

旧舎熊小学校が解体された地域住民からは、避難場所について不安の声が聞かれるが、現在避難場所の指定はどのようなになっているのか。

また、今後の避難場所として避難タワーの建設や、寺院に協力を求めるなど、多角的な対策が必要と考えるが。

○町長

一時避難場所については、舎熊小学校グラウンドと朱文別沢方への町道を想定している。

避難所としては、比較的高台に位置する「円光寺」さんに協力を願えるように協議している。避難タワーについては、当町

の津波避難の全体計画を策定し、地域ごとの現状を把握し十分な検討をしたい。

○小田議員

一時避難場所として、旧舎熊小学校のグラウンドがなぜ指定されていないのか。

○町長

旧校舎の老朽化の問題で、不適地ということだった。

再度指定することは可能だが、冬期間の除雪を考えると検討課題も残る。

津波の場合は、ただちに海から少しでも遠く離れ、高い所に逃げるのが避難の仕方と考える。

**小田議員③**  
**明和園におけるボランティア等の受入れについて**

Q. ボランティアを受け入れては

A. 計画が必要

○小田議員

過去、明和園に空きがあるのに介護員不足で入所ができない

問題について何度か質問をしてきた。

先日、ある町民の方から「明和園が大変な状態だということが議会報などで読んで分ったので何か協力できればと思うが、自分にできることはないだろうか」という声を聞いた。

町の責任において運営の改善努力はもちろんだが、明和園は町民にとって非常に大切な施設であり、今回、町民の協力で明和園を応援していくことはできないかという視点で質問をする。(一)以前はホーム祭など、町民ボランティアの要請があったように記憶しているが、現状と今後の意向は。

(二)レクリエーション、食堂内の配膳・下膳、行事の会場設営、洗濯物の整理など補助的な活動などを施設において行うボランティアは、有償・無償の派遣事業として多くの地域で行われているようであるが、明和園と社会福祉協議会が連携して町民ボランティアを募り、明和園に協力、役に立てるボランティア活

動ができる仕組みを作るべきと思うが。

○町長

(一)以前はホーム祭を屋外で実施しており、増毛高校の生徒さんと町社協のボランティアセンターに入所者の誘導をお願いし、幼稚園の園児さんに遊戯の披露、町内業者の有志さんにジーンズカン等の調理のお手伝いをお願いしていたが、入所者の重篤化に伴い、屋外での歩行の危険性、また、悪天候を回避するために、最近では屋内での実施となり、開会セレモニー・食事・緑日コーナーを別々に実施、誘導なども職員で行っており、現在は幼稚園の園児さんと町内業者の有志さんへのボランティアへの要請となつている。

今後は職員だけで対応している入所者の誘導や緑日コーナーでは若干人員不足であり、ボランティアセンターの協力もお願いしていきたいと考えている。

また、ホーム祭以外では明和園の運動会での増毛小学校2年生児童に遊戯の披露をお願いし

ており、今後もお願いしていきたいと思つている。

(二)受入れについては明和園の本来の業務とボランティアとの調整が必要となる。

入所者を楽しませる慰問活動は、保育所・幼稚園・小学校の園児、児童による歌・遊戯・ふれあい等をお年寄りが大変楽しみにしており、今後もぜひ続けてもらいたいと考えている。

また、施設において行うボランティアの派遣事業は、有償・無償に限らず明和園の本来の業務を含め、協力いただけれるものであれば是非作るべきであり、今後の検討課題としたい。

○小田議員

有償・無償に限らずボランティアの受入れは検討課題だということだが、例えば、日々の配膳、洗濯物をたむというボランティアは、直ぐにでも欲しくはないのか。

○町長

ボランティアよりも勤めてくれる人が欲しい。受入れにあたっては、衛生面



でのことや実際に行う職員とボランティアの方々の連携などを考慮すると、仕事内容、時間帯等を含めて、計画を立てなければならぬ。

もちろん、現場には様々な仕事があるので前向きに検討する。

○小田議員  
外の人間を入れることは感染症など様々な怖さもある。

しかし、外の人間の目があることで職員の質の向上も図られると思うが。

○町長  
いかにも職員の質が低下しているという指摘に聞こえる。そういった質問のあり方であれば反論したくなる。

その点については取り消していただいて、何とか外部の方を良い形で入れるという前提での話である。

編集後記

先日見たテレビドラマに『読まなかった本の話』というエピソードがありました。

職場の健康診断で異常が見つかり、精密再検査の結果、余命1年を告知された教師が主人公です。

「ここに1冊の本があります。この本の持ち主はこの本を読みたいと思ったので買いましたが、今度読もうと思いつつ、すでに1年が経ちました。この本の持ち主はこれを読む時間がなかったのでしょうか。多分違います。読もうとしなかった。それだけです。そのことに気付かない限り

り、5年経っても10年経っても持ち主がこの本を読むことはないでしょう」と、受験まであと1年しかないと嘆く生徒達に向かい、「あと1年しかないと思つて何もしない人は、5年あつても10年あつても何もしないと思います。だから、1年しかないなどと言っていないでやってみましょう。この1年やるだけのことばやってみましょう」と、自分にも言い聞かせるように話すという場面でした。

これは、何となく無意味に、目的も持たず生きてきた主人公が、死の恐怖に苦しみ、それまでの人生を後悔しながらも、やがては、「残りの人生を最後の日

まで精一杯生きたい。後悔しないように生きたい」と思うに至り、「生きている」という実感をつかんでいくという内容の『僕の生きる道』という物語でした。

皆さんもそうでしょうか、私は普段、「明日や1年後、この世にいないかもしれない」などと考えながら生活しているわけでもないのです、このドラマを見て、「人生」とか【幸せ】とか、【死】というものについて少し考えさせられてしまいました。

他にも、去年は健康診断を受けなかったなあとか、最後まで読んでいない本が10冊くらいはあるなあとか・・・。

まずは、まだ読んでいない本を読むところから始めてみましょうか。

(至成)

議会のうごき

11月

- 5日 議会報139号発行
- 12日 町村議会議長全国大会 (東京都)
- 13日 留萌管内町村議会議長会行政視察
- ～14日 (新潟県津南町・十日町市)
- 26日 全員協議会

12月

- 1日 議会運営委員会
- 11日 全員協議会
- 平成26年第4回定例会

27年1月

- 14日 議会報編集特別委員会 (第1回)
- 21日 議会報編集特別委員会 (第2回)
- 26日 議会報編集特別委員会 (第3回)

議会報編集特別委員会

- 委員長 上野 武
- 副委員長 豊田 敏
- 委員 飛田 眞
- 菅原 幸
- 松倉 道弘
- 菅原 吾
- 豊田 利剛
- 飛田 野
- 菅原 武
- 松倉 剛